おおてみち

第135号

令和８年(2026年) ４月１日
滋賀県立安土城考古博物館



令和８年度春季特別展　安土城築城450年記念

安土山築城前夜

戦国乱世の城



『絵本豊臣勲功記』　六角承禎(当館蔵)

令和８年
4月25日(土)―6月14日(日)

開館時間＝午前９時～午後５時 ※入館は午後４時30分まで
休 館 日＝4月27日(月)・5月7日(木)・11日(月)・18日(月)・25日(月)・6月1日(月)・8日(月)
入 館 料＝大人970円(750円)／大学生700円(520円)／
小中高生420円(310円) ／県内高齢者(65歳以上)510円(390円)
※(　)は20人以上の団体料金です。
主催＝滋賀県立安土城考古博物館



近江風土記の丘
滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

令和8年度春季特別展

「安土山築城前夜 ―戦国乱世の城―」

会期：令和8年4月25日(土)～6月14日(日)
会場：企画展示室

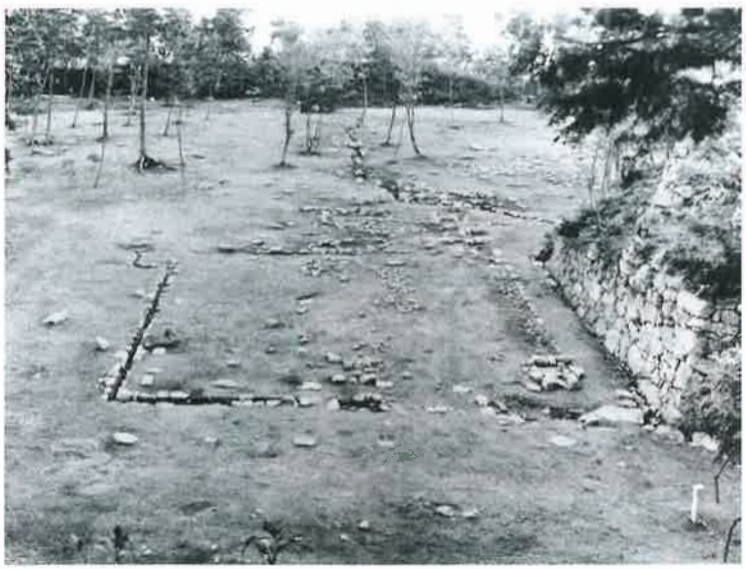
戦国時代の城は、しばしば「乱世」という枕詞が付くように、もっぱら戦に使用する臨時施設のイメージがあると思います。一方、近世の城は、石垣の上に土壁や瓦を用いた重厚な構造物が並び、内部は政庁や茶会などの場として機能していました。織田信長が築いた安土城は、このような近世の城の要素を初めて兼ね備えた、「近世城郭の出発点」に位置付けられています。

それではなぜ、信長は画期的な城を築くことができたのでしょうか。戦国時代の各地に築かれた城に目を向けると、石垣や土壁、瓦といった構造物の痕跡や、文書を発給するための筆記具、茶の湯に必要な道具などの遺物が見つかります。既に各地の城には、恒常的な施設が存在し、その中では、政治や文化交流が行われていたのです。信長は、それまでの城の要素を集大成して、安土城を築いたとも言えます。

本展では、各地を代表する城跡の資料を展示します。安土築城450年を迎える今年、戦国時代の城から、安土城に目を向けるきっかけになれば幸いです。

（佐藤佑樹）

展示資料出土遺跡
観音寺城跡　観音寺城下町遺跡　水茎岡山城跡　小谷城跡
一乗谷朝倉氏遺跡　北畠氏館跡　大桑城跡　勝瑞城館跡
飯盛城跡　勝龍寺城跡　坂本城跡　安土城跡



観音寺城跡　伝本丸発掘調査時



北畠氏館跡　水鳥形香合（北畠神社蔵）

〈春季特別展関連講座〉

①6月6日(土)　13時30分～15時
「六角氏と観音寺城」
講師　新谷 和之氏（近畿大学）

②6月13日(土)　13時30分～15時
「考古資料と歴史史料 ―一乗谷・小谷城の文字資料を中心として―」
講師　佐藤 圭氏（元福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）

参加費　500円(資料代)　※各回当日支払い
会　場　当館2階セミナールーム
定　員　120名（先着順）

城郭トレイル

❶観音寺城跡と桑實寺①　4月29日（水・祝）
❷観音寺城跡と桑實寺②　5月10日（日）
❸安土城跡①　5月17日（日）
❹安土城跡②　5月24日（日）

※いずれも事前予約が必要
参加費　2000円(入山料、保険料含む)
定　員　❶❷15名、❸❹20名
詳細は当館ホームページをご覧ください。



江州蒲生郡桑實寺与観音正寺山境論所内済為取替絵図 部分（教林坊蔵）
※展示期間：4/25～5/24

資料紹介

横尾山古墳群7号墳出土遺物

横尾山古墳群は、大津市瀬田橋本町に所在し、古墳群のほぼ全体が発掘調査されている。古墳群は、須恵器窯や製鉄遺跡の分布する瀬田丘陵の最西端、瀬田川を見下ろす南斜面に30基が分布する。

古墳群の造営期間は、7世紀中葉のごく短期間であること、横穴式石室、木棺直葬墓、木炭槨墓、陶棺や土器棺が使われるなど、埋葬形態に多様性階層性がみられることを特徴とする。

今回紹介する7号墳は、発掘調査報告書によれば、横穴式石室を内部主体とする円墳で、墳丘は、盗掘および封土の流出でほとんど残されていなかったという。墳丘規模は、南北で約6.1m、周溝は、幅約1.8m、深さは約0.1mであったと報告されている。

横穴式石室の玄室中央やや西側壁寄りには、陶棺が置かれていた。発掘調査時には、すでに石室奥壁側の半分や棺の蓋が破壊されていたが、陶棺の中からは鉄鈴2点などが見つかった。

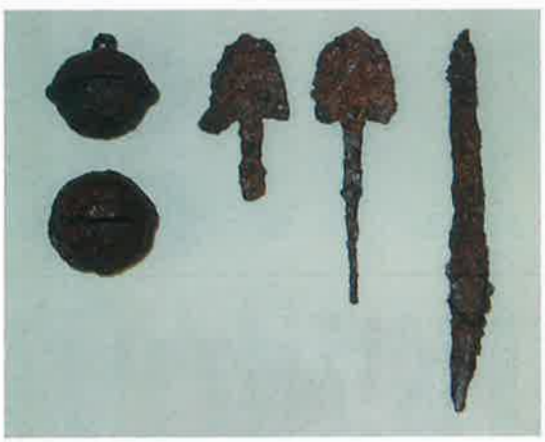
陶棺は、全国で700例近く見つかっている。そのうちの8割弱が岡山県、2割弱がかつて畿内と呼ばれた近畿地方中央部で見つかっている。7号墳で見つかった陶棺は、寄棟造りの家を表現したもので、四柱式家形陶棺と呼ばれるタイプの陶棺である。このタイプの陶棺は、岡山県には少なく、畿内が圧倒的多数を占めており、須恵器生産集団との結びつきが考えられる。草津市の横土井遺跡でも古墳から出土しており、被葬者としては、瀬田丘陵に展開する須恵器や鉄の生産遺跡群で活動した工人たちや、それを管理した官人たちが想定される。

陶棺の中から見つかった鉄鈴は、球形の体部に方形の鈕が付き、鈕には円孔が穿たれている。体部下面には、一文字の入り目が開けられる。両方とも丸の存在が認められるが、丸の材質については不明である。鈴の大きさは、径4.2cmと4.0～4.1cmである。鉄鈴の持つ意味は、律令期の「駅鈴」の存在から、交通に関した遺物と考えられよう。被葬者は生産物の流通にも関わったのかもしれない。

（大道和人）



7号墳全景（滋賀県提供）



鉄鈴・鉄鏃・刀子

令和7年度安土城跡発掘調査の成果概要

「おおてみち133号」でお伝えしたように、令和7年度は、伝本丸取付台の東半部を対象地として発掘調査を実施しました。

昨年度までの調査では、伝本丸取付台の北半部から大きな建物の跡を発見しました。平成の発掘調査で、東半部にも礎石があることを確認していましたが、今年度の調査で、調査区の東半部を中心に、礎石がさらに広がっている様子を確認しました。また昨年度、建物跡の南端で検出した石列の続きを、今年度調査区の西側部分でも検出しました。石列は、建物礎石と平行するように伸びています。こうしたことから、この石列は、昨年度検出した石列が北半部の建物の南端を区切っていたのと同様、東半部の建物の西端を区切るものと考えられます。

伝本丸取付台は、伝本丸御殿と天主をつなぐ重要な郭です。特に、今年度調査した東半部は、伝本丸御殿から天主にいたるルート上に位置しており、発見した建物がそのルートとどのように関わるのか。今後、調査研究を進めていきたいと思います。

（滋賀県文化財保護課）



検出された礎石

博物館の主な催し

令和８年度春季特別展「安土山築城前夜」 令和８年4月25日(土)～6月14日(日)

4月
6日(月) 休館日
7日(火)～ 特別陳列Ⅰ「秀吉の城 小谷城」 ～23日(木)
11日(土)～ 特別史跡安土城跡発掘調査成果速報展 ～24日(金)
13日(月) 休館日
20日(月) 休館日
25日(土)～ 特別陳列Ⅱ「豊臣の城1 長浜城と城下町」 ～7月17日(金)
27日(月) 休館日
29日(水・祝) 城郭トレイル① 観音寺城跡と桑實寺①

5月
7日(木) 休館日
10日(日) 城郭トレイル② 観音寺城跡と桑實寺②
11日(月) 休館日
17日(日) 城郭トレイル③ 安土城跡①
18日(月) 休館日
24日(日) 城郭トレイル④ 安土城跡②
25日(月) 休館日

6月
1日(月) 休館日
6日(土) 春季特別展関連講座①「六角氏と観音寺城」
講師：新谷 和之氏（近畿大学）
8日(月) 休館日
13日(土) 春季特別展関連講座②「考古資料と歴史史料―一乗谷・小谷城の文字資料を中心として」
講師：佐藤 圭氏（元福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館）
15日(月) 休館日
29日(月) 休館日

特別陳列Ⅰ
「秀吉の城 小谷城」
会期：4月7日（火）～4月23日（木）
会場：望楼ホール

羽柴秀吉は、浅井氏が籠城する小谷城攻めで功績を挙げた恩賞として、織田信長から北近江三郡を与えられて小谷城の城主となりますが、数年後には新たに築城した長浜城に移ります。本陳列では、秀吉以前に城主であった浅井氏時代の、浅井氏と朝倉氏の関係の深さを物語る越前産の笏谷石製品を展示紹介します。

特別陳列Ⅱ
「豊臣の城1 長浜城と城下町」
会期：4月25日（土）～7月17日（金）
会場：望楼ホール

長浜城は、秀吉が関白に任官し天下人となると、山内一豊が豊臣家の家臣として城主となり、一豊は妻子とともに長浜城に入ります。しかしその直後、天正大地震が発生し、長浜も大きな被害を受けます。本陳列では、城下町で出土した、地震で被災した資料を展示紹介します。


小谷城跡出土　笏谷石製バンドコ
（長浜市蔵）


長浜町遺跡出土　輸入陶磁器
（長浜市蔵）

※シアターを視聴される方は、こちらのQRコードから予約ができます。→
※講演会・講座の会場は当館セミナールームです。
※事情により行事内容や日時・講師が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認下さい。
※滋賀県立安土城考古博物館は公益財団法人滋賀県文化財保護協会が指定管理をしています。

おおてみち　第135号
令和８年（2026年）４月１日発行
編集・発行　滋賀県立安土城考古博物館
〒521-1311　滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678　TEL0748-46-2424
E-mail：gakugei@azuchi-museum.or.jp　URL：https://www.azuchi-museum.or.jp